

高田家資料について

高田家資料285点は、平成14年の秋、高遠町図書館に寄贈され、約1ヶ月の整理期間を経て、目録が作成されたものである。

この高田家は、高遠藩の代官役などを勤めた高田六右衛門の次男・昌茂（貞右衛門・甚太夫）が明和の初め頃、特技の馬術をもって藩に召し抱えられ、新たに一家を成した時から、明治の廃藩に至るまで、四代にわたり、主として藩の御馬役などを勤め、さらに藩士たちの馬術稽古の指南役でもあったようである。

したがって、高田家の資料の中には、藩の御厩関係・馬術関係の資料が多く、また、御馬役として藩主の参勤の際にも御駕籠脇に従い、度々江戸と高遠の間を往復したらしく、参勤道中に関する資料も多く見出された。

また、祐筆方の諸御用控や、諏訪神社御柱祭礼に騎馬行列を差し出した際の御用控なども、興味深い資料である。

大坪流の馬術関係の伝書を初め、荻野流鉄砲・塚原ト傳流剣術から関流和算の伝書などまで、多数の皆伝書が大切に保存されており、高田家四代の人達が、いかに文武の修行に熱心であったかを伝えている。

明治以後の高田家は、旧藩士の多くがそうであったように、教職に従事したようで、明治初期のこの地方の教育状況を知る手掛かりとなるような資料が、何点か残されている。

平成15年10月
高遠町図書館